

What ISIT?

ISIT : Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU

福岡モバイルブロードバンド実証実験スタート

ISITでは、産学官連携による高速インターネットアクセス技術の共同研究開発を進めておりますが、昨年11月1日より、福岡で高度な無線LAN(ローカル・エリア・ネットワーク)技術による「モバイルブロードバンド実証実験」がスタートしました。

これは、福岡の街頭で歩きながらでも、インターネットをブロードバンドで使える実証実験です。このようなインターネットの環境を、安全に且つ快適に利用することで、住み良い街づくりを目指しています。

詳細については、研究トピックスNo.31(次ページ)で紹介いたします。



記者発表時におけるデモンストレーション
(10月31日、福岡市庁舎1階ロビーにて)

知的クラスター創成事業へのISITの取組み

ISITでは、システムLSI設計技術を第一研究室で研究開発しており、またシステムLSI設計開発を行う企業やベンチャー企業を中心に、人的交流や情報提供、産学官連携プロジェクトの推進を積極的に展開しております。

文部科学省が推進する知的クラスター創成事業は、大学、公的研究機関等を核とし、関連研究機関、研究開発型企業等が集積する研究開発能力の拠点「知的クラスター」を創成する事業です。福岡地域では、(財)福岡県産業科学技術振興財團(IST)が中核機関となり、産学官の英知を結集して、システムLSI設計開発拠点の中核となる研究組織を構築し、世界的な研究開発競争に対応することを目指しています。研究開発は九州大学が中心となる集中研究所方式で行っています。

ISITでは所内に集中研究所の分室を設け、村上第一研究室長を中心となって共同研究開発事業者として参画しております。



新年のごあいさつ

理事長 石川 敬一

あけましておめでとうございます。「我が国が5年以内に世界最先端のIT国家となる」という目標を掲げた「e-Japan戦略」も今年が中間の年に当たります。高度情報通信ネットワークの形成や人材の育成、電子商取引等の促進、行政の情報化や安全性及び信頼性の確保等重点施策が今後も加速度的に展開されていくものと思われます。

ここ福岡では、システムLSI設計技術研究の準国家的なプロジェクトとして、「システムLSI総合開発センター」の開設が2004年春に百道浜地区に予定され、アジアにおける半導体開発の拠点として期待されています。

さらに、百道浜地区では、ソニーが戦略的なシステム開発の研究拠点を本年1月に開設する等、IT企業の集積が益々進んでいます。産学官連携した研究開発としては、本年1月より福岡と韓国・釜山を結ぶ海底光ファイバーケーブルと次世代インターネット技術を使い、大学での双方向の遠隔講義等の実証実験を始めています。

大手企業や地場企業さらに研究機関等との連携を支援する弊所は、その役割が益々重要になってくるものと認識しております。

本年も、地域の皆さんに開かれた研究所を目指して、従来にも増して積極的な事業展開を図ってまいる所存でありますので、これまでと同様のご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。

最後に本年が皆さんにおかれましても、良い年となりますようお祈り申し上げます。

福岡市民がモニターとして参加! 「福岡モバイルブロードバンド実証実験」実施中

ISITでは、平成14年11月1日より平成15年3月下旬まで「福岡モバイルブロードバンド実証実験(FMBB)」を実施しています。この実験についてQ&A形式で紹介いたします。

Q1)今回の実証実験における技術について教えてください。

A) ノートパソコンやPDAなどの携帯端末を用いて、屋外に設置された無線基地局を介しブロードバンド(高速大容量)サービスが、出張や外出先で移動しながらでも家庭やオフィスと同じ感覚で、快適に利用できる技術です。負荷の集中や

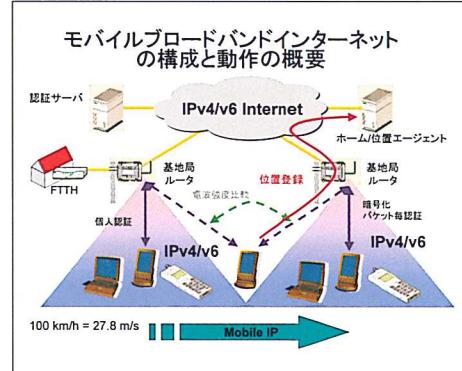
障害への耐性も高い「無線LANを使用したインターネットアクセス技術(モバイルIP)」とビジネス等においても安全に使用できるように、高いセキュリティを確保した「個人認証技術及び暗号化技術」に支えられています。

Q2)何故市民をモニターとして募集して実験を行うのですか

A) 今回の技術の特徴である無線LANを使用したインターネットアクセス技術や個人認証、暗号化等のセキュリティに関する技術は、ルート株式会社・東京工業大学・京都大学・(財)京都高度技術研究所(ASTEM)・株式会社トランス・ニューテクノロジー・ISITの共同研究で開発しました。2001年に福岡で開催された世界水泳選手権大会においては、無線LANによる高速インターネットサービスの実証実験をし、機能的には問題なく所定の能力を確認しております。このような実証実験を重ねながら、今回はさらに実用化へのステップアップを図るため、一般市民からモニターを募集し、実証実験をするに至りました。

実験期間は、平成14年11月1日から平成15年3月下旬までを予定していますが、その後は高速移動中(電車等に乗車中)での実証実験も考えています。

(参考:実験専用ホームページ <http://www.fmbb.org/>)



Q3)どこでも、どんなモバイル端末でも使えるのですか

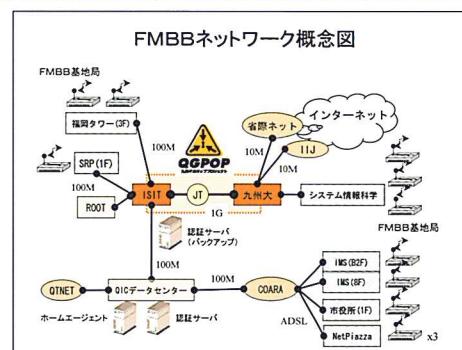
A) 無線基地局を設置している場所(実験場所)の周辺において、無線LAN対応のノートパソコンやPDA、デジカメ等無線が使える端末から高速インターネット(速度:11Mbps)が使えます。

現在無線基地局が設置されている場所は、
 ・福岡市庁舎1階ロビー　・市営地下鉄駅ホーム
 ・天神イムズビル　　・福岡SRPセンタービル1階ロビー
 ・福岡タワー3階展望室　・九州大学箱崎キャンパス です。

Q4)ISITの他にどんな組織が実験に関係しているのですか。

A) ISIT(実験総括、事務局)のほかに次の組織が協力しています。
 ・九州ギガポッププロジェクト(QGPOP)
 …実証実験、運用システム開発の実施
 ・株式会社キューデンインフォコム(QIC)
 …データセンター(サーバー)の提供
 ・株式会社コアラ
 …インターネットアクセス回線・コンテンツの提供
 ・モバイルインターネットサービス株式会社(MIS)
 …実験機材(基地局・アンテナ・既存設備等)の提供、技術供与
 ・ルート株式会社…技術協力

以上の他に基地局を設置している次の協力団体・企業があります。
 ・福岡市
 ・株式会社福岡ソフトリサーチパーク(SRP)
 ・イムズ(IMS)
 ・福岡タワー株式会社



Q5)無線LANによるサービスで他の特徴について教えてください。

A) 無線LANによるサービスは、通常のインターネットと同様にヤフー等のISP(インターネット・サービス・プロバイダー)を介し提供されます。また、新たな設備投資も無く、安価な基地局を設置するだけで利用でき、既存のインターネット

という基盤技術を使用しますので、料金を定額に設定することができます。また、速度の面では11Mbpsといった携帯電話に比べれば非常に速い点が特徴です。

Report 1

第35回定期交流会

〈平成14年8月22日〉

「コンピュータネットワーク技術の新しい動き」～グリッドの概要と海外動向～

九州大学 情報基盤センター 助教授 岡村 耕二氏

グリッドとは、従来ネットワークにつながっていなかった資源（スーパーコンピュータ・電子顕微鏡等）を、インターネットを介してアクセス可能にするための技術の総称です。グリッドの種類としてコンピュテーションナルグリッドがあります。インターネット上に分散した計算資源を仮想的に並列コンピュータとして共有し、多くの科学技術分野

で利用されています。グリッドはインターネットを介して大規模で行うことに意義があるので、技術的な標準化や国際間での連携を深めることが重要です。



第36回定期交流会

〈平成14年10月22日〉

「ISITが提案、推進する産学共同研究プロジェクトの実際」

今回の交流会は、ISITが推進している「産学共同研究プロジェクト」を題材にして、ISITからは研究企画部の川根祐二が概要（目的・狙い等）を説明し、第三研究室長の松本三千人が研究活動を紹介しました。また具体的なプロジェクトの事例として、その取組み状況を現場で中心的に活躍された株式会社ロジックリサーチ土屋忠明社長から紹介していただきました。土屋社長のご講演では、九州福岡の地に頭脳を集積し

ようとする強い意気込み感じることが出来、ISITの良いところも悪いところも指摘していただき、有意義な交流会となりました。今後もこのような交流会を通じてISITの活動を理解いただき、みなさまのお役に立てるようにと考えています。



土屋 忠明 氏

第37回定期交流会

〈平成14年11月5日〉

「産学官連携による事業化への取組み」～大学の持つ技術の移転を受けて育つベンチャー～

株式会社ユージーン 代表取締役社長 井出 博之氏

「ユージーン」は、熊本大学の教授らが中心になって設立した大学発ベンチャーです。また「トランスジェニック」は、同じく熊本大学で生まれた生命科学分野の技術シーズを事業化する目的で起業化したバイオベンチャーです。共に(財)熊本県起業化支援センター等の官と熊本大学の支援をどのように受けて成功したかをご講演いただきました。バ

イオとITというジャンルの違いはありますが、産学官の連携のもとで地場産業を活性化させることの実例として有意義な交流会となりました。



Report 2

シーサイドももち発 「マルチメディア市民講座」

〈平成14年12月14日〉

「いつでも、どこでも、誰でも、インターネットが使えるユビキタス・ネットワーク社会って何だ!」

＜講演＞

「生活インターネットとしてのユビキタス・ネットワークを考える」

株式会社野村総合研究所 情報技術本部
上席研究員 横澤 誠氏

第一部では、まずITが私たちの生活にどのように関わってきたかを振り返り、そして今後どのように進化していくのかその方向として「ユビキタス・ネットワーク」を分りやすく解説いただきました。ブロードバンドや情報機器等の技術の発達により、どのような生活の場面でもネットに接続し、双方向な情報のやり取りができる社会が現実のものとなっています。そんな顔の見えないネット社会の中にあっては、個人のアイデンティティが重要であり、またシステム開発者に対して生活視点を忘れずに人に優しい開発が望まれると解説いただきました。



＜研究紹介＞

「無線LAN技術を用いた福岡モバイルブロードバンド実証実験」

(財)九州システム情報技術研究所
第2研究室

特別研究室長 平原 正樹

第二部では、ISITが研究開発中の無線LAN技術を紹介しました。講演では、無線の基礎や有線LANとの違い、そしてどこでもインターネットアクセスが可能となる技術(モバイルIP)とセキュリティの仕組みについて分りやすく解説しました。また現在実施中の「福岡モバイルブロードバンド実証実験」を紹介しました。その中で、実験スタッフがPCやデジカメ等のモバイル端末を使用して、移動しながらインターネットができるデモンストレーションを行いました。



一般市民への情報提供とISITの研究内容の紹介を目的にした今回のマルチメディア市民講座は、当日は141名の参加がありました。参加の方々から頂いたアンケートによると、回答者の約90%の方々から「参考になった」との声を伺うことができました。以下参加者のご意見を参考までにご紹介いたします。

- ・生活者の視点がにじみ出ていて参考になった。(講演)
- ・介護の仕事をしていますが、家庭の型もかわり遠距離介護など、難しい問題に少し明るさが見えてきたような気がしました(講演)
- ・ユーモアもあって分りやすかったです。基本的なことを話して下さりとても参考になりました。(研究紹介)
- ・こういう講座をこれからも多く開いてください。(全般)

「ISITに求められるものは」

第12回 研究顧問会議

牛島 昨年の4月に研究所長が長田所長から私に、第一研究室長が安浦先生から村上先生に代わりまして、また、これは前回の研究顧問会議でも申し上げましたが、事務局長が菰田さんから松田さんに代わり、ISITも少しづつ変化しています。

今回は研究顧問として独立行政法人 産業技術総合研究所 理事・関西センター所長であります諫訪さんに就任していただきました。諫訪さんにつきましては、電子技術総合研究所という国立の研究所から独立行政法人に移ることで大変なご努力をなさったことをいろいろ



牛島 和夫 所長

なところで伺っております。そういうご経験はわれわれにとっては非常に示唆に富むものがあり、ご指導頂けるのではないかと思います。

また個人的なことかも知れませんが、諫訪さんとはいくつかの外部評価委員等をご一緒して、今ご紹介したお立場上から私などには考えつかない切り口で発言されておられます。こういう発言は私どもの研究所にとっては貴重であろうと思いましてお願いしましたら、すぐにお引き受けいただき大変に感謝しております。本日も是非忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。

研究開発、ビジネス化

森光 地域に特化し地域の特徴を出した研究活動を推進するということで、文部科学省が推進する知的クラスター創成事業が出てきました。全国12ヵ所でいろいろなテーマをもって進められています。福岡ではシステムLSI設計開発クラスターが推進されています。

三井 知的クラスター創成事業は非常に良い構想だと思いますが、システムLSIについて日本の大手メーカーはどう考えているのでしょうか。これについて自分たちでやろうという考えをもっているのでしょうか。大手メーカーの担当者は、新しいアイデアのあるシステムLSIを設計することができるベンチャーを捜しています。そこに自分たちの持っているツールを使ってもらって、しかも投資もして、そして設計したものを自分たちの工場で生産するという構想を聞きますが。そういう実態とこのシステムLSI設計開発クラスターはどのような関係になっているのでしょうか。

森光 研究活動は、研究統括を安浦先生(九州大学)とし、20名の研究者を入れて行う予定

です。5年後に終ったら事業化して解散しますので、今から5年後の事業化を目的に計画していきます。共同研究先の企業は今募集中です。

冨山 先生方が色々と企業を廻られています。

諫訪 大学の先生が行う研究は基礎的なところから発想しようとしています。民間はその時期付き合いにくいと感じます。そういう意味で、テーマやテーマの成熟度が大学と民間とで遊離しているのではないかと思います。

メーカーの方はここ数年間どういう意識が芽生えているかというと、個別でやつては駄目で、うまいアライアンスを組まなければならないと考えています。経済産業省も少し構造改革をしようということで、例えば、広島大学における先生を中心に未来プロジェクトやあすかプロジェクトを筑波のところに作って、それぞの企業等の役割分担を明確にして、縦割りではなく一緒にやらなければならぬという動きがあります。政策当局も企業がやる気があるということをベースにやっていかないと、いくらお金をつぎ込んでもだめだということは分っています。

一方でこの知的クラスターの方は、プログラムの狙いというものが、大学の活性化とその中から新しい企業化を生み出す仕組みを用意することで、その中にシステムLSIが乗っかっています。それを今後どう生かすかというのは、役人の世界ではなくて、我々の世界であると思います。

長田 知的クラスター創成事業の最初目標は、研究するだけではなく事業化できるものを出すと言うことですから、5年後に最終的にこういうものを作りという事を最初に決めておかないと、なかなか到達できないと思います。

三井 知的クラスターで5億円も出てくるような仕事を対して、非常にいいチャンスだと思いますので、5年後に研究成果を出して、そしてそれを大手のメーカーが共通に使い出すようなことを期待します。そのためにも、今から日本のメーカーの関係者と少しづつコンタクトポイントを取りながら、実際的に議論しながら進めていくことが良いと思います。

冨山 第一研究室ではシステムLSIの設計支援技術であるCAD(Computer Aided Design)の研究開発をしています。昔は日本の大手企業も自社でCADを開発していましたが、現在は欧米製CADに駆逐されています。CADは



LSI設計技術の集積であり、今の日本では正に技術の空洞化が進んでいます。

三井 企業は危機感を持っていないのですか。

冨山 大手十数社が出資して半導体理工学研究センター(略称STARC)という研究開発のための会社を作っています。そこで、CADの研究開発も行っており、私も25%の比率で出向しています。

杉野 欧米製のCADに駆逐された理由は何ですか。

冨山 日本の半導体メーカーは総合電機メーカーであり、半導体製造から家電製品開発まで広く行っており、CADで商売する気がなかったのだと思います。一方、欧米にはCAD専門の会社が多く、产学連携も上手く廻っています。

ISITでは、CADの中でも、特に上流設計のためのCADの研究を行っています。現在よりも上流に移行しないと、大規模なLSIは設計できなくなるからです。また、上流に行くということは製品の企画や開発に近づくことであり、日本の産業構造にも適していると考えています。

三井 第三研究室が行っています障害者への遠隔支援サービス(手話通訳・歩行支援)は非常に面白いと思いますが、たとえば手話の通訳者が限られている中で、サービスを利用する人が同時に多数生じた場合、どのように運営するかという基本的な問題はどう考えているのですか。非常にむづかしいハードルがもう一つそっち側にあるということを忘れないようにしとかないと、ただ単にデモンストレーションで終わってしまうと思います。

松本 今は指令センター一箇所で集中して対応していますが、将来的にはこのセンターのうしろに多くの在宅のボランティアの人々を組織して、在宅のボランティアの人たちに支援してもらう。そういう形を考えています。

吉田 もう一つ、第三者が介在することで会話が聞かれてしまうという問題があると思います。プライバシーが全く守られてないですね。



吉田 将 氏

[研究顧問] (出席者五十音順)

杉野 昇 株式会社三菱総合研究所 社友 兼 日本大学 教授
 講師 基 独立行政法人 産業技術総合研究所 理事・関西センター所長
 長田 正 福岡市 顧問(IT戦略担当)
 三井 信雄 イグナイトグループ マネージングパートナー
 吉田 将 九州芸術工科大学 前学長

[ISIT]

牛島 所長、松田 専務、森光 次長
 富山 第1研究室研究員
 (村上室長 海外出張中のため代理出席)
 荒木 第2研究室長、松本 第3研究室長

松本 このシステムを使ってもらう時にはプライバシーのことを踏まえて、会員登録をしてもらって、その人に対してサービスを提供することになります。通常は聴覚障害者の方が一緒に手話通訳の方を連れて来てコミュニケーションをとるわけですが、このシステムを使ってコミュニケーションをとる場合は、プライバシーに関わることがあることを前提の上で使ってもらうことを考えています。

長田 障害の人と一緒にやってやるというのは非常にいいことです。昔、盲導犬ロボットを開発したことがあるのですが、障害の人たちからは、あんな役に立たないものは使わないという批評噴々とありました。障害者の心を全然知らなかつた人が開発したものだったからです。



長田 正 氏

松本 そういう意味では、今回のプロジェクト提案の場合には、最初から視聴覚障害者やそういう人たちを良く知っている福祉センターのニーズを踏まえて、このようなものは役に立つかどうかという議論をしながら進めたいと考えています。

杉野 こういう遠隔支援システムのような社会システム、公共システム的なものは、ここで開発されて、そしてそれを国が認めて、ハード、ソフトを作るため民間の企業が出てきて始めて世の中に認められると思います。これがいいシステムとして、社会システムとして普及していくためには他に何をしていく必要がありますか。



杉野 昇 氏

松本 このシステムの今後の展開につきましては、たくさんのボランティアの支援ということでシステムを拡張したいということと、逆に高齢者とか障害者の人がサービスする側になって、例えば外国通訳サービス等の遠隔サービスをするといった少しへシステムを展開した形で、来年度提案したいと考えています。

杉野 日本全体の社会システムに普及していくために、他に何をしなければならないかという点はロボットを使った電子教育教材についても言えると思います。いくつか学校等で導入事例がありますが、他に中学や高校等で

利用されていないところが沢山ありますので、それも今の問題と同じように次に展開していくことを考える必要があると思います。たとえば、いい製品とかコンピュータですと市場原理で自動的に普及していくますが、この電子教育教材は良くても国が認めなければ普及しないわけですから、せっかくここまで取っ掛かりができた電子教育教材というものを、もう一段飛び上がって展開させるにはどうしたら良いかを考える必要があると思います。

三井 教材を専門的に作ったりしている教育産業がありますので、教材会社と一緒になって製品化するとか、事業化するというビジネスに繋がることを考えないといけない気がします。ISITにおいては、事業化として成果を出すというメントで考えていかないと駄目ではないでしょうか。ペーパーだけで終ってしまうと本質から離れてしまうのではないかでしょうか。

講師 事業展開に関しては、我々の研究所ですら随分と問題意識を大きく変えています。それで、基本的に何故我々のところが事業化をやらなければいけないかという一つのフィロソフィーを持っているのです。それは機会があった時にお話するとして、実際にそれを展開するためにやはり色々な仕組みを作らざるを得ません。

専門家を呼んでこなければならないという意識、またポリシーみたいなものをきちんと持っていないと、一緒にナアナアの付き合いでやりながら事業化しませんかという話では、まずうまくキックオフできないという意識を持つことが必要です。これからは、企業との付き合い方もそのような意識を持ち、そしてすぐにキックオフができる形が必要となってきたと思っています。

地域貢献、社会貢献

森光 福岡市の電子市役所の構築が具体的に動きだしました。CALS/EC(電子調達・納品等)、GIS(統合型地理情報システム)について、基本構想とアクションプログラムの策定をISITが請合っており、福岡市の情報化推進についても直接的な貢献を果たしております。

三井 サンフランシスコ(カルフォルニア州)のe-ガバメントではどのように発注しているかというと、政府と一緒にになって発注の見積り基準を提案するグループがあり、そこがガイダンスしています。

一つの案ですが、政府が出す発注を見積り、査定をするグループがないから、代行してはどうかという提案があります。もしISITがそういう代行ができるのであれば、福岡市・県だけ

でなく日本全国にすごく役に立つ事が出来るのではないかと思います。

森光 今回のような地方自治体の情報化に関する業務を蓄積していくことで、ISITもどんどんと提案力がついて来ていると思います。また、システム構築に関連して言いますと、各自治体がそれぞれシステム作っていたのでは非常に無駄なので、こういうものについてはコアシステムを作っているわけです。コアシステムは大手メーカーがより合って、コンソーシアムを作っています。

荒木 高校と大学を連携させたり、高校生時代から社会的意識をもたせる、社会との連携をもたせること、また今の日本の若い人の科学技術離れに歯止めをかけることを目的に、文部科学省が今年から3年間スーパサイエンスハイスクールという事業を始めました。全国から26の高校を選んでおり、九州では沖縄以外では修猷館高校が選ばれています。

三井 勉強できたら3階級特進させるというようなことではないのですね。



荒木 そういうことではありません。今年から高校が完全週休二日制になりましたので、土曜日などを総合的学習として有効に活用する教育の一環で、例えば大学の研究室に高校生が入ってきて、大学の先生とか大学生と一緒に勉強や研究をやろうというものです。

具体的には、東京・つくば研修旅行、全校生徒に対する進路指導研究会、特定の分野に興味を持つ生徒を指導するスーパーサイエンス俱楽部等、色んなプログラムを修猷館高校で考えていらっしゃいます。特定の分野に興味を持った生徒を大学やISIT等の研究機関で指導するということを考えています。情報関係、インターネット関係に関しては、まず修猷館高校とISITを無線LANや光ファイバーでつないで、インターネット研究の基盤となるネットワークであるQGPONネットワーク、さらには日韓光ファイバーケーブル等を利用して、韓国をはじめとして世界のどこでも直接アクセスして、国際交流活動に使ってもらうことを考えています。

三井 非常にいい構想ですね。システムLSIの設計についても高校生にさせたら非常に良いものを作るのでないでしょうか。

Report 4

◆福岡市「産学研究開発サポート事業」 平成14年度採択テーマ決定 (8月26日)

ISITでは昨年度に続き、福岡市から「産学研究開発サポート事業」を受託いたしました。

この事業は、情報関連分野において、大学等と連携して新技術・新製品の研究開発を行う中小企業に対して「助成金の交付」及び「事業化の支援」を行うことにより、成功モデルの創出を目指すもので、産学連携を一層促進する新しい取り組みです。

今年度は7件の応募があり、審査委員会の厳正なる審査の結果、次の2件が助成対象事業として採択されました。1件あたり500万円が助成され、来年度は事業化に取り組んでいただきます。

○「クリーンキャリアの開発」

(第一施設工業(株)、福岡工業大学)

○「2D・3Dサインライティングシステム(23SLS)」

(株)松下美紀照明設計事務所、九州芸術工科大学)

(注)カッコ内は申請企業、共同研究団体の順

Report 7

◆「玄海プロジェクト協議会設立総会」開催 (10月2日)

この協議会は、昨年春に運用を開始した福岡、北九州と釜山とを高速に接続する海底光ファイバーケーブルを活用して、インターネットに関する高度な国際共同研究プロジェクトを推進し、国内外の大学・研究機関が連携して日本や韓国・アジア・米国など、太平洋地区の広範囲な学術研究ネットワーク形成の一翼を担うことを目的に、ISITの荒木第二研究室長が会長となり設立されました。

協議会は次のような諸活動を支援していきます。

・国際高速インターネットワーク等のインフラの整備及び運営

・先端的コンピュータネットワーク技術等の研究開発

・各研究プロジェクトと連携して、関係する研究者等に対し情報交換の場の提供

ISITではこの協議会の目的に賛同し、会員としてその活動を積極的に推進していきます。



Report 5

◆ロボット・インキュベーション都市 シンポジウム

(11月13日)

福祉、医療、災害救助など市民生活の各シーンで活躍するロボットを市民に紹介し、地域におけるロボット産業のあり方を探ることを目的としたシンポジウムが開催されました。

「市民との共生によるロボット産業の発展」をテーマにパネルディスカッションが行われ、ISITから牛島所長がパネラーとして参加しました。

ロボットの研究には、道路等の市民生活に身近な現場でロボットを動かす実験が必要であり、特にロボット研究や産業育成に活発な福岡市で、そのような研究環境の確保ができるいかといいう提案等があり、活発な議論が展開されました。



ご来訪の皆さま

平成14年8月以降の主なご来訪者[一覧]

9/18	長崎大学工学部 情報システム工学科	20名
9/20	韓国貿易センター	6名
10/18	地域を生かす科学技術政策研修会	60名
10/25	在日大使館員等福岡紹介セミナー	10名
11/01	平成14年度指定都市経済局長会議	22名
12/06	中国共産党青年幹部	9名
12/11	平成14年度第11回IJSP	17名

新スタッフ紹介

(平成14年12月31日現在)

職 属 役 職 氏 名

第3研究室 研究助手 キヨシ タカハシ

ISITの総勢は49名です。

●発行 財団法人 九州システム情報技術研究所 ISIT

Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU

〒814-0001

福岡市早良区百道浜2丁目1-22-707(福岡SRPセンタービル(ももちキューブ)7F)
Fukuoka SRP Center Building (Momochi Cube) 7F 21-2-2, Momochihama, Sawara-ku,
Fukuoka City 814-0001

TEL 092-852-3450 FAX 092-852-3455

URL : <http://www.isit.or.jp> E-mail : koryu@isit.or.jp

印刷：(株)ドミックスコーポレーション



Report 6

◆(財)京都高度技術研究所(ASTEM) との交流会

(11月25日)

毎年1回(財)京都高度技術研究所(ASTEM)と研究交流を行っていますが、今回はASTEMより池田所長以下7名が来福され、双方から活動状況の報告とISITから各研究室の研究内容の紹介を行いました。

ASTEMのH14年の主な活動は、次のとおりです。

- ・知的クラスター事業(京都ナノテク事業創成クラスター)を管理法人として受託
- ・ベンチャービジネスの誕生・育成を支援するVIL(Venture business Incubation Laboratory)事業の実施

